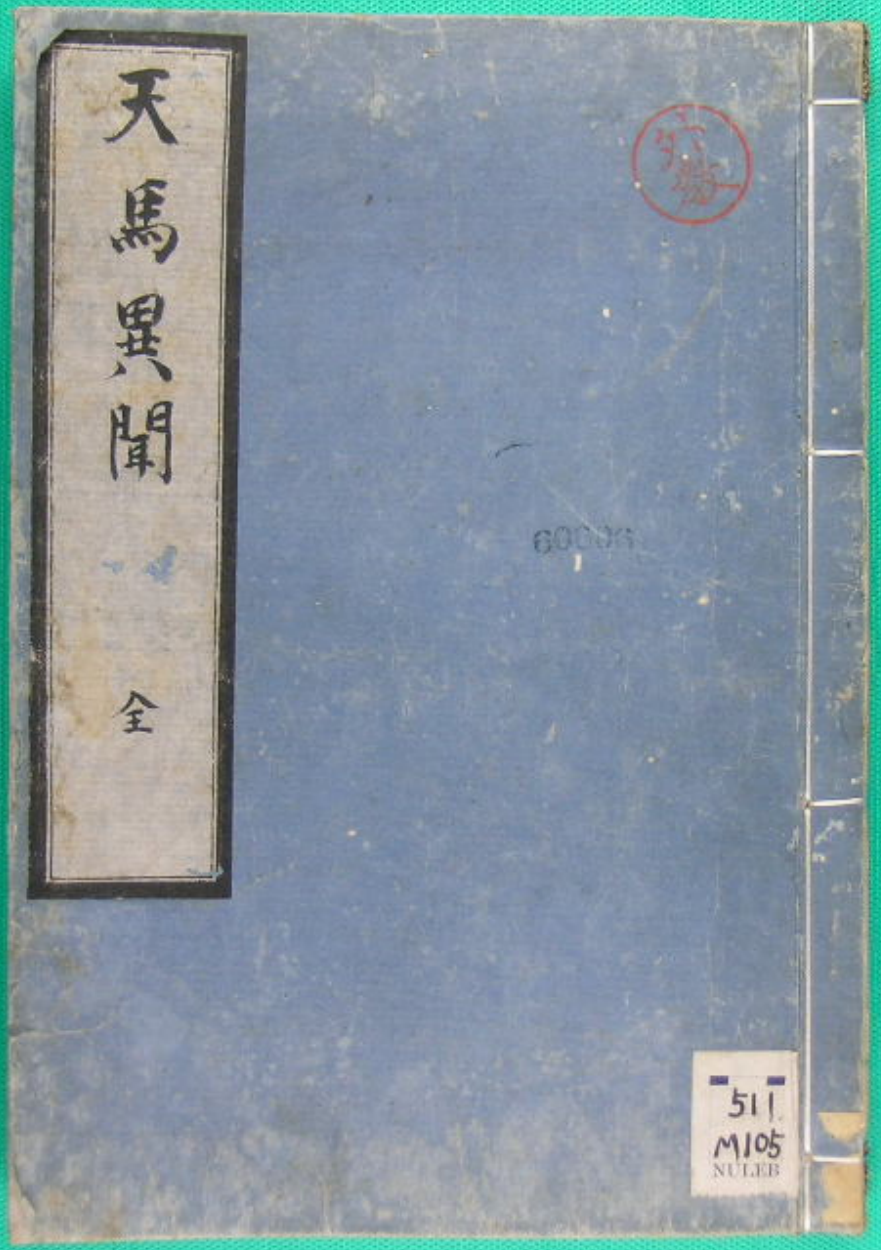
【天馬異聞】



経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】

511
M105

天馬異聞

此書ハ甚比乃加比丹ノ日記中ニアリシヲ天化年中ノ加比丹ヘシレヽキストフ抄寫シテ未刻獨逸人ヨリ翁亦如閑吉雄先生ニ清テ釋ヲ成シ自天馬異聞ト名ク余頃又翁ニ請テ寫シテ帳中ニ秘ス蓋シ有馬ノ戰爭タルヤ素ヨリ歴然ニシテ固ヨリ詳悉ナル記モアルヘキニ云ヘ此下長崎論アリシナリ

米澤新澤格無名氏ノ云既アリシカ紛失シテ覓ル不申候而先祖居候メテ上ニ候也光ツ

黒川真道蔵書
黒川真道蔵書

経済学部分館　武藤文庫所蔵

ケ様ナル文章ノアリシト覚申候尚後便見
出シ候ハヽ者詳ニ一申ス候以上

有事

竹田先生侍史

天馬異聞

西洋距元千六百六十七年十二月十七日 寛永十四年十一月廿日ニ

晴天雷風

或人語ル曰ク日本馬ハ人ノ言順ヲ聴ク徒ニ嘶ク

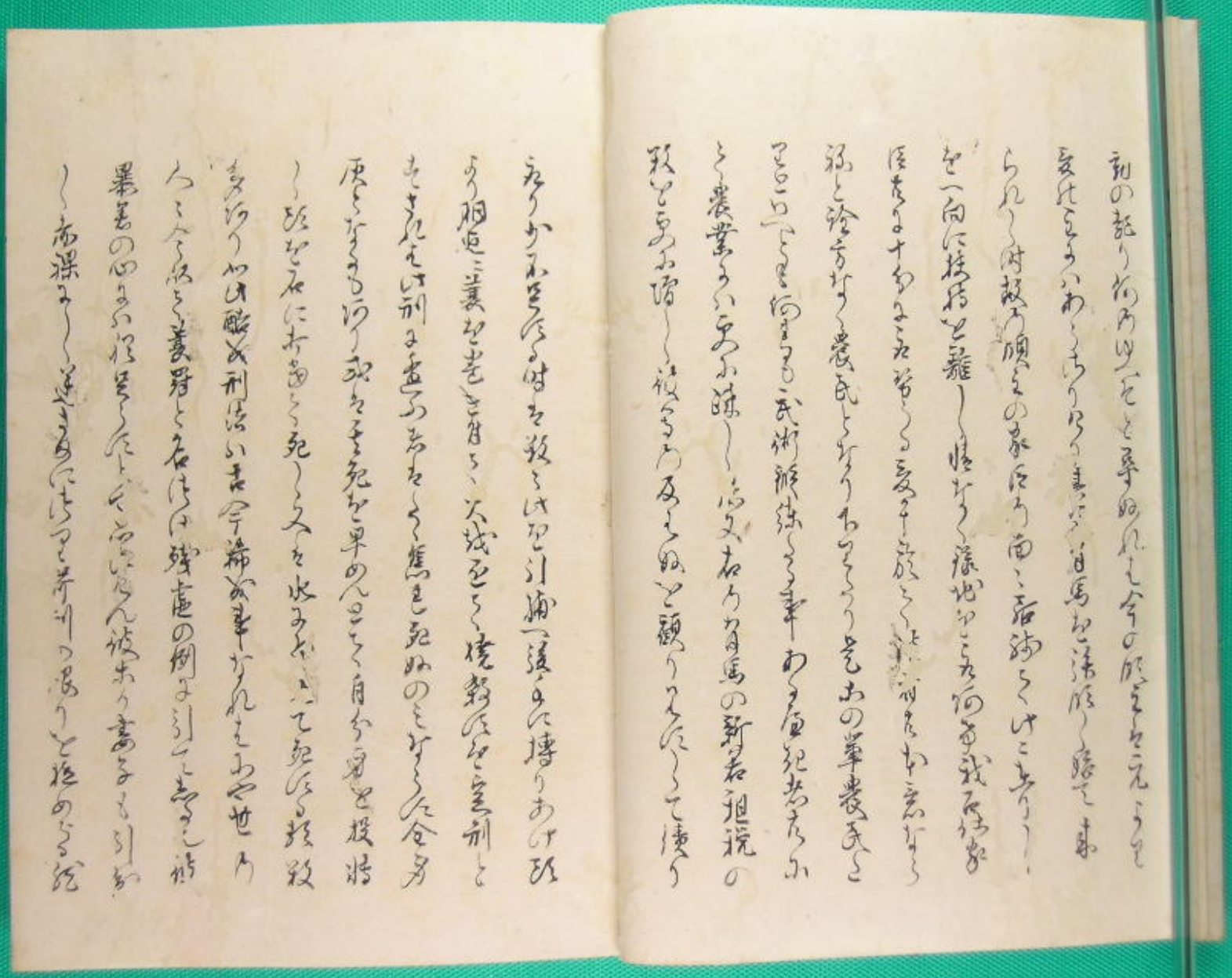
て兵ヲ動シ唐ヲ討ント欲シ敵国ヲ侵ス時ハ兵ヲ

殺ス孔明制ヲ出ス人ヲ城内ニ引ク此ノ如ク

ハ馬ニ通ズル而ラ吾軍ハ敗ヲ自ラ取ル石ニ人ヲ

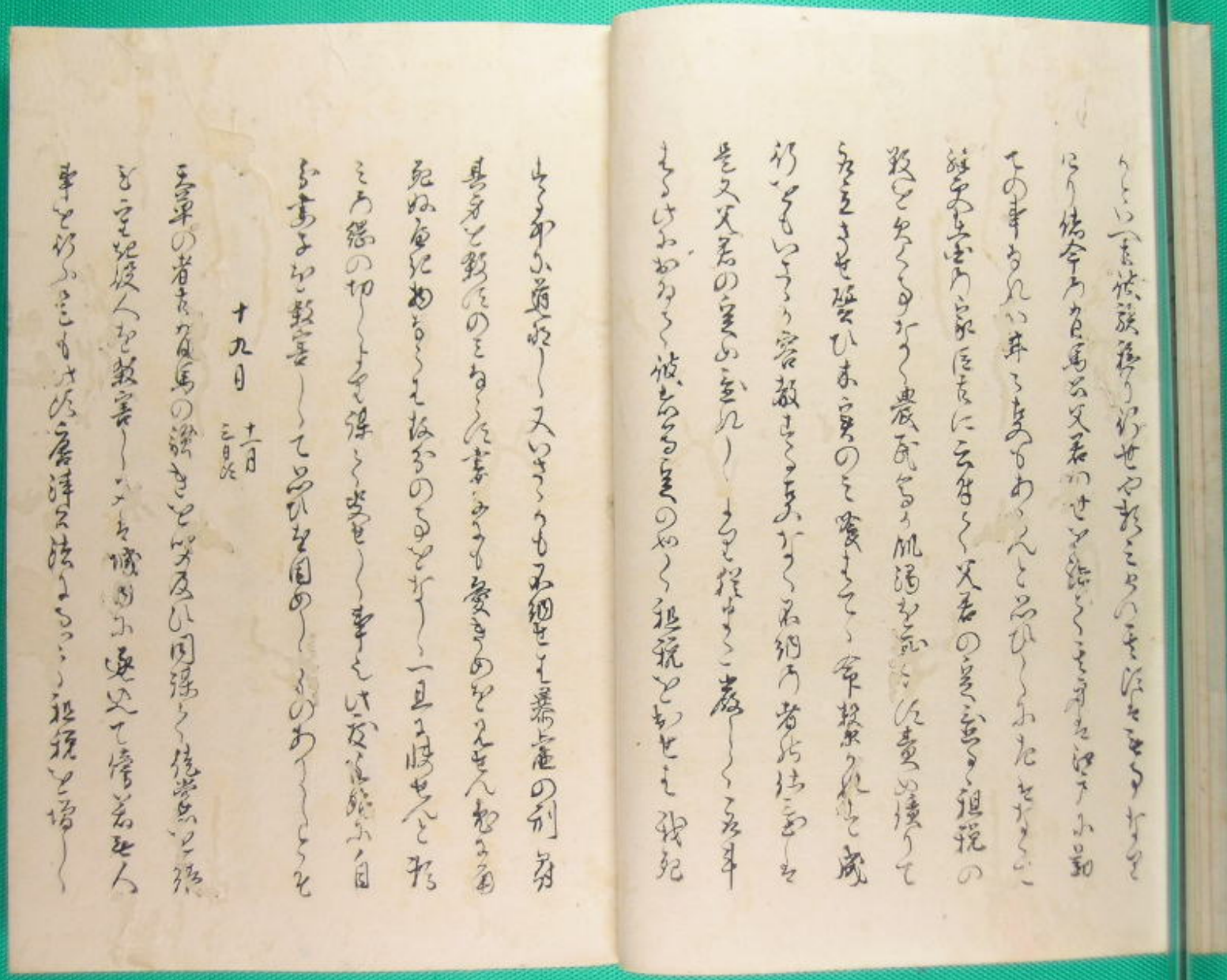
知ル事ヲ知ル又因ハ馬ニ通ズル類ナリ但陸ヲ

【天馬異聞】



経済学部分館　武藤文庫所蔵

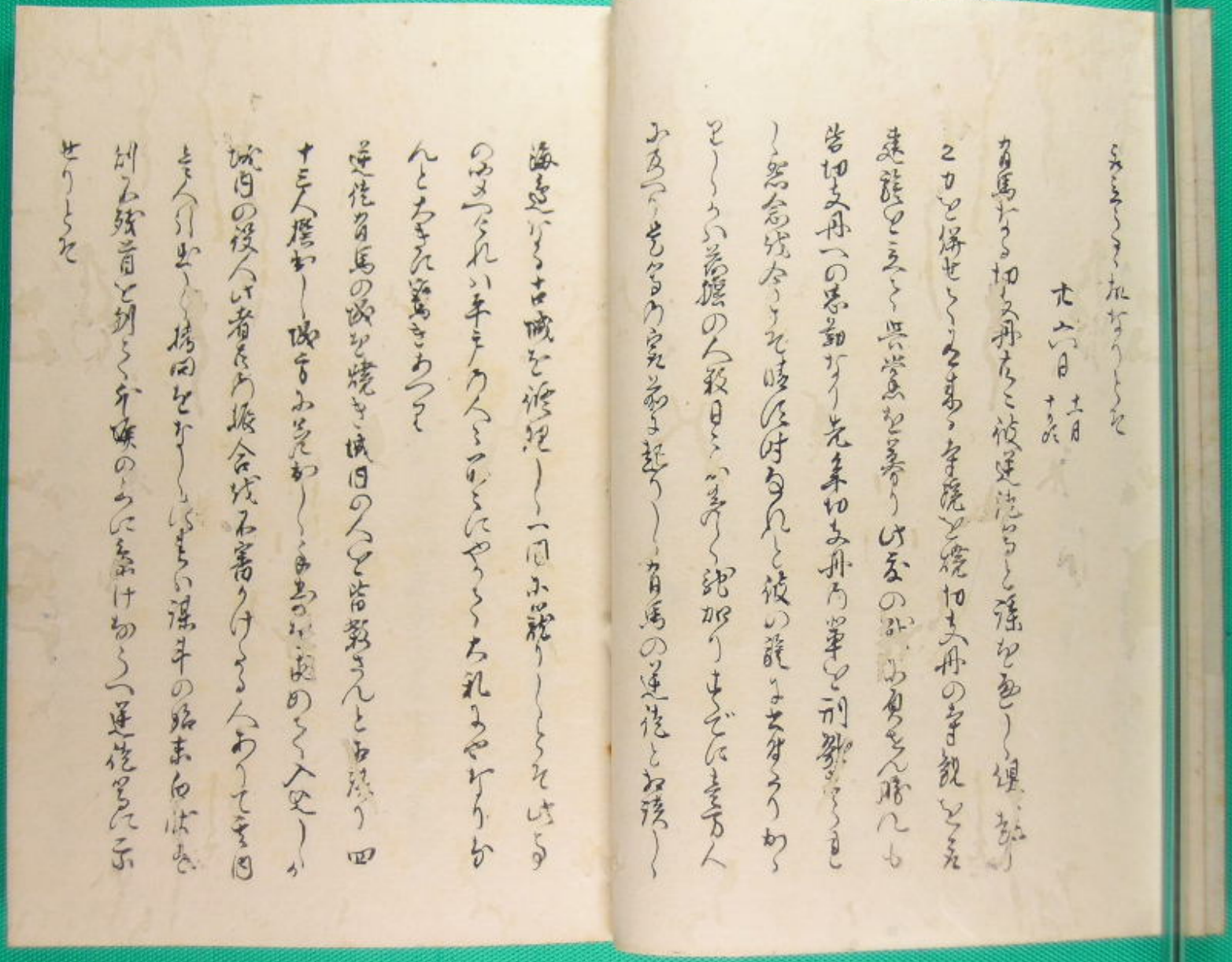
【天馬異聞】



十九日　十月廿三日

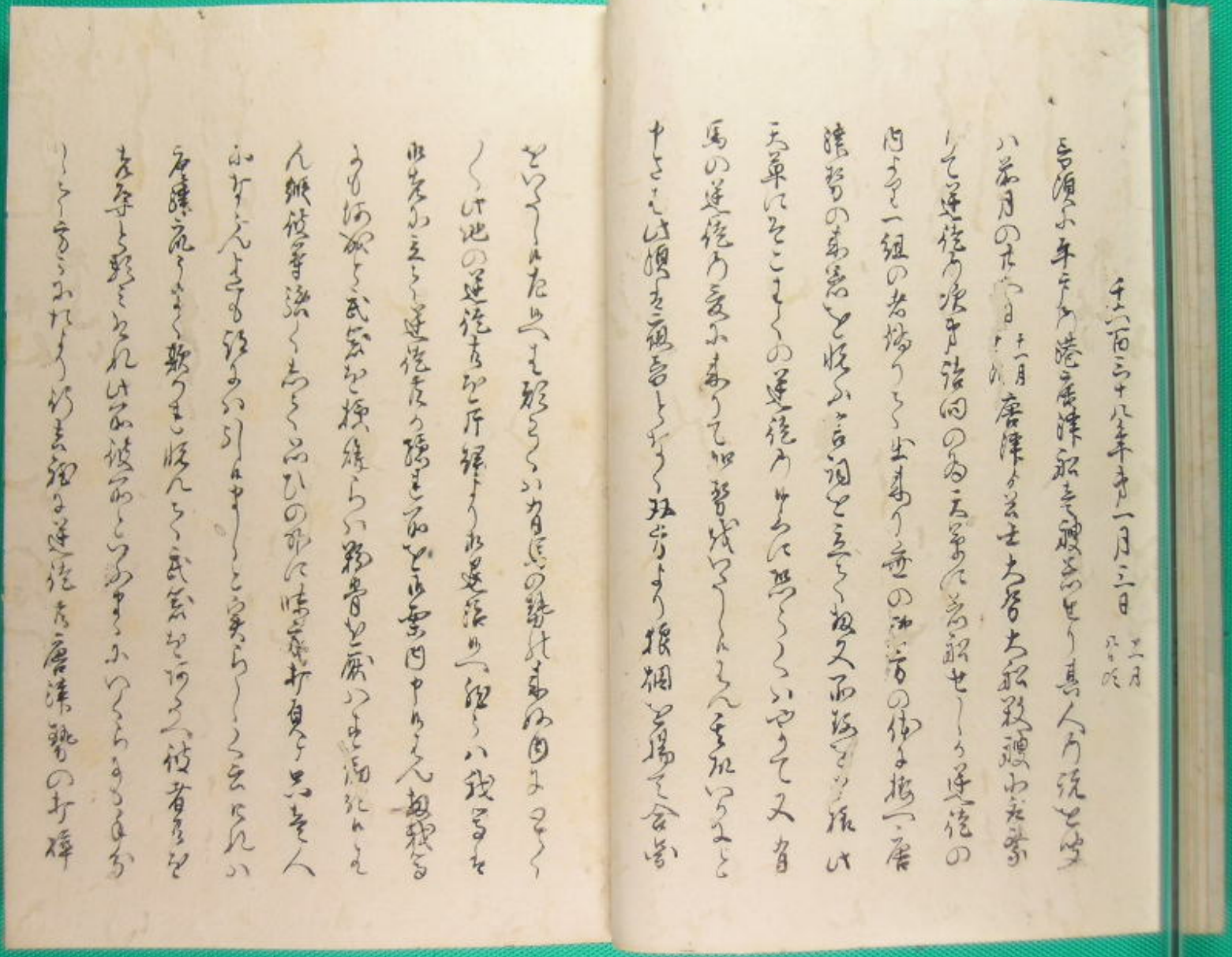
経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】



経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】



経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】

八日 十一月廿
三日改

京馬の逆徒三組ふ[illegible]あり二組を伏見と[illegible]一組
八幡馬乗城ふ押寄の頭[illegible]戰ひ始[illegible]城内の
[illegible]

彼伏見乗城を[illegible]彼伏[illegible]
[illegible]切り[illegible]の[illegible]逆徒[illegible]
[illegible]

[illegible]

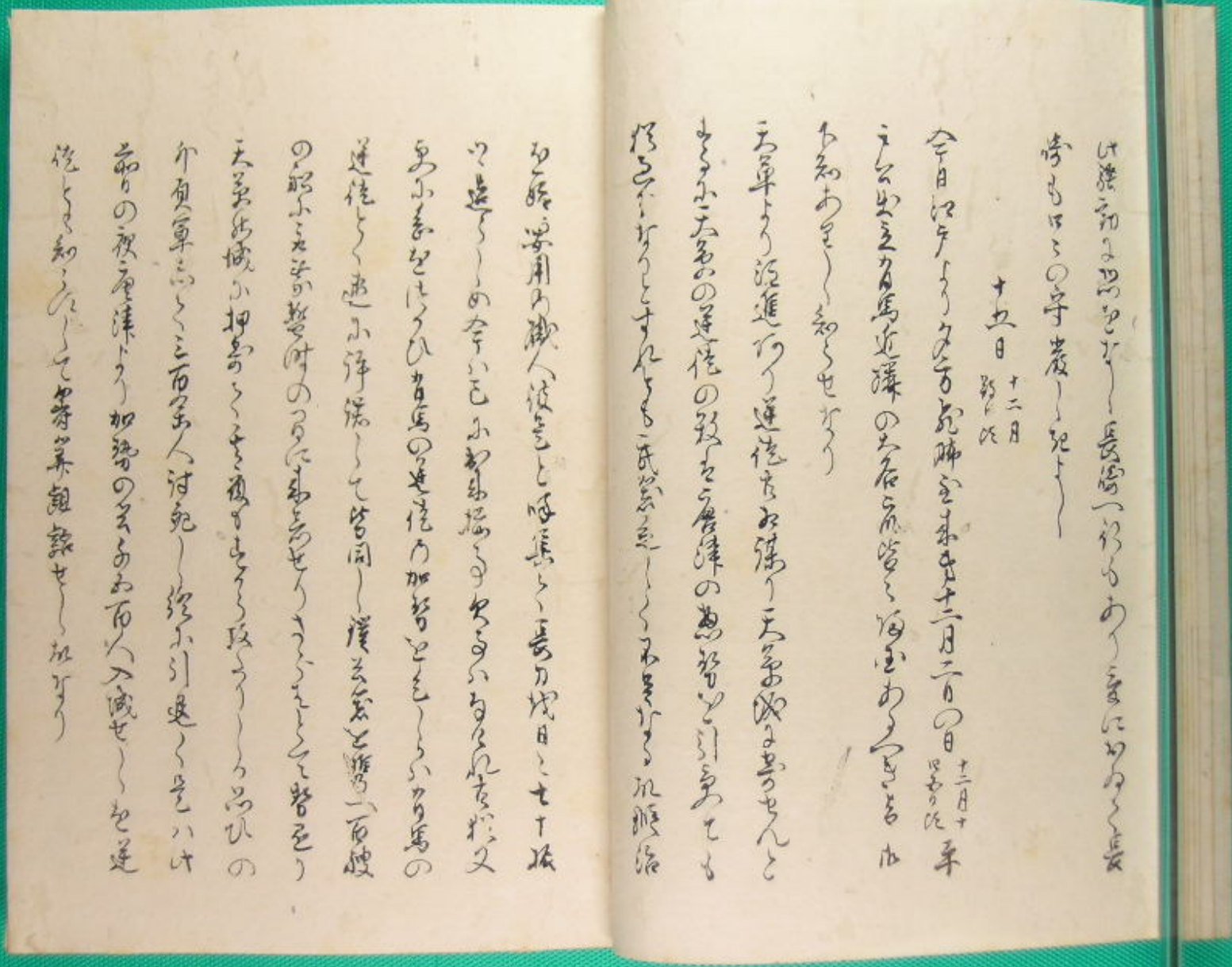
甲書[illegible]

[illegible]

長谷の近邊[illegible]

経済学部分館　武藤文庫所蔵

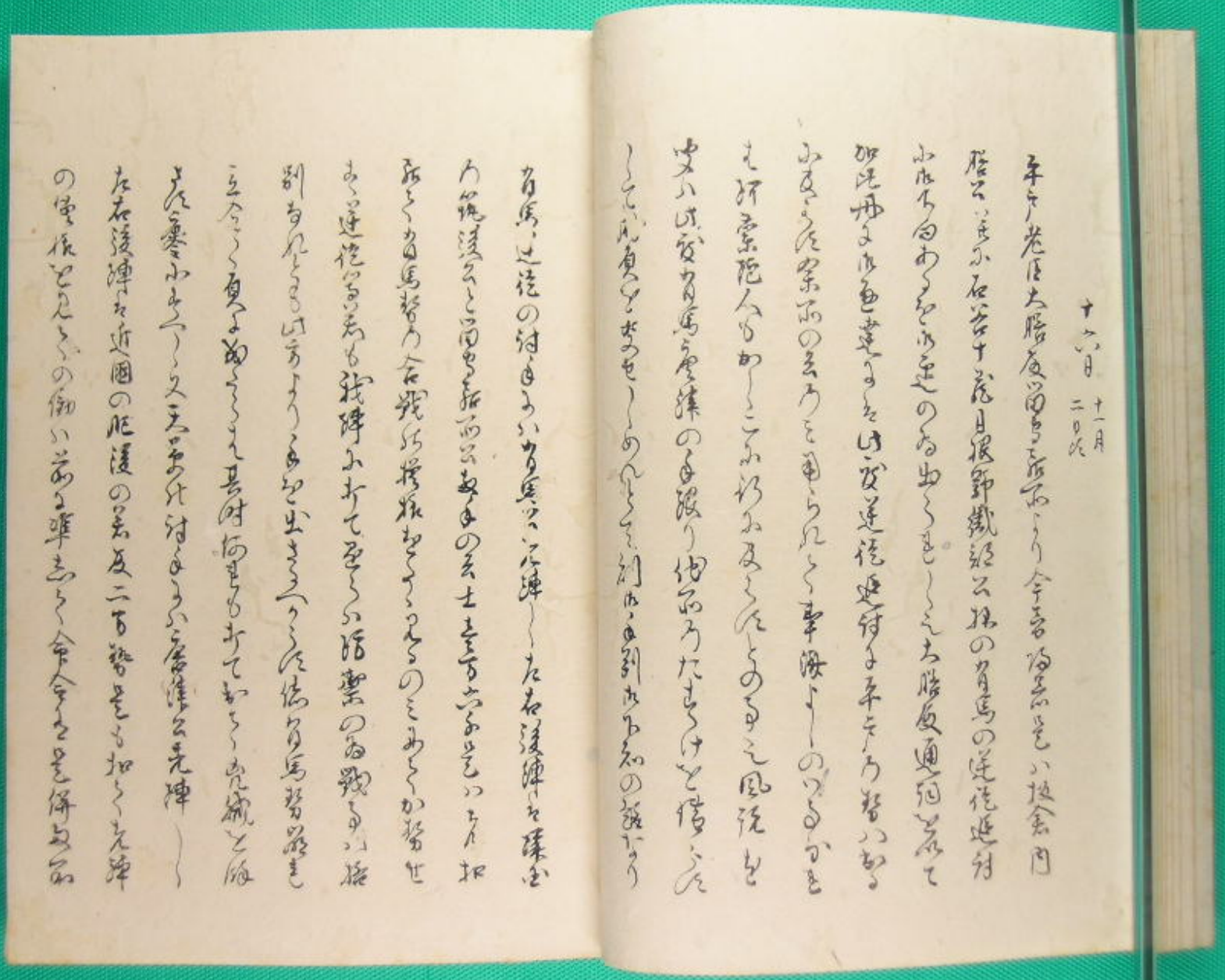
【天馬異聞】



経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】

十六日　十一月
二日



経済学部分館　武藤文庫所蔵

十八日　十二月
四日

経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】

十九日 十二月 六日之

二日程前より天馬出現せり海岸中遠ふ〳〵
[illegible]海の漫遊[illegible]

[illegible]

二十日 十二月 六日之

今日高浜より[illegible]

経済学部分館　武藤文庫所蔵

十三日 十二月九日

十四日 十二月十一日

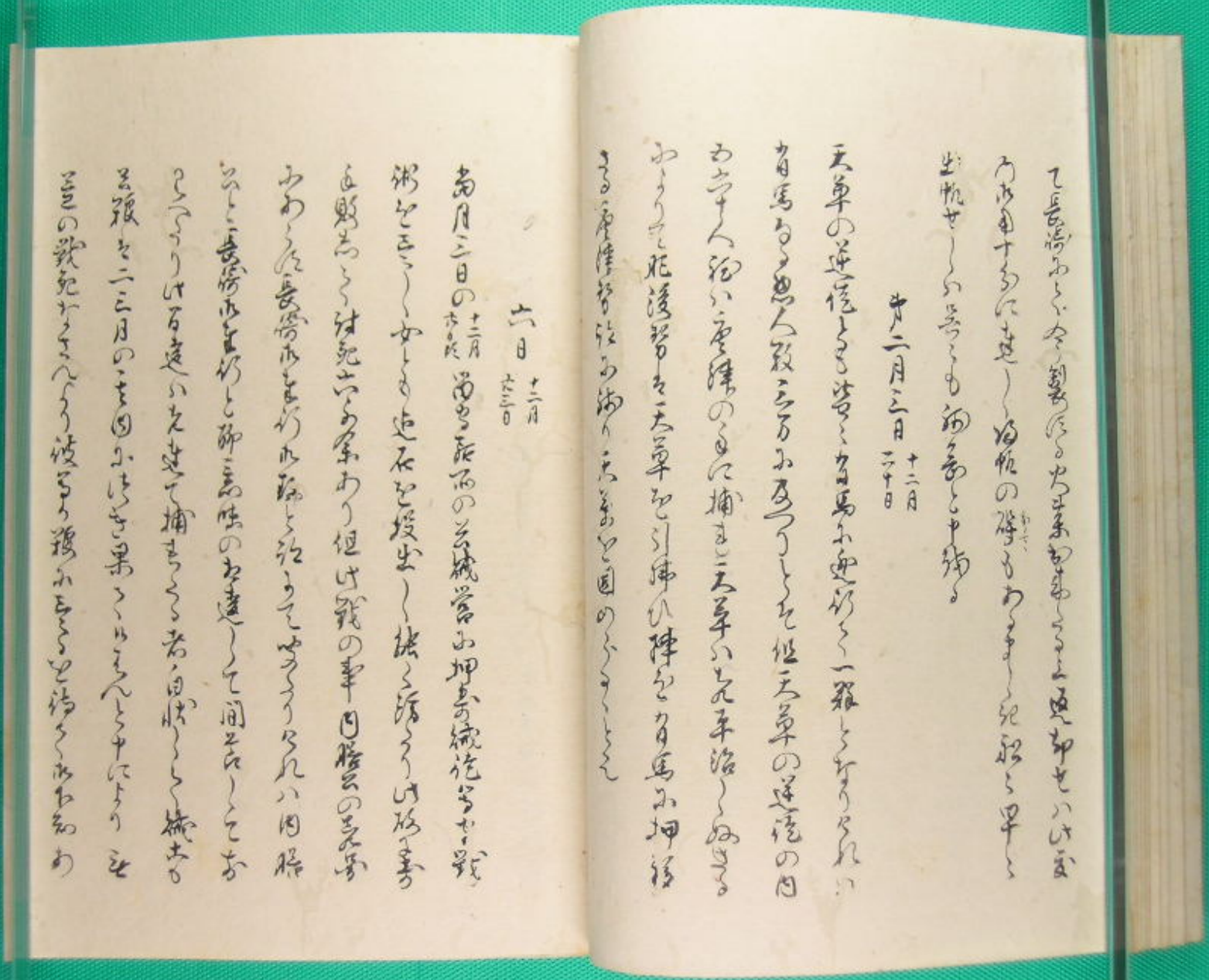
十六日 十二月十日

十七日 十二月十二日

十八日 十二月十七日

経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】



出帆せしふ[illegible]

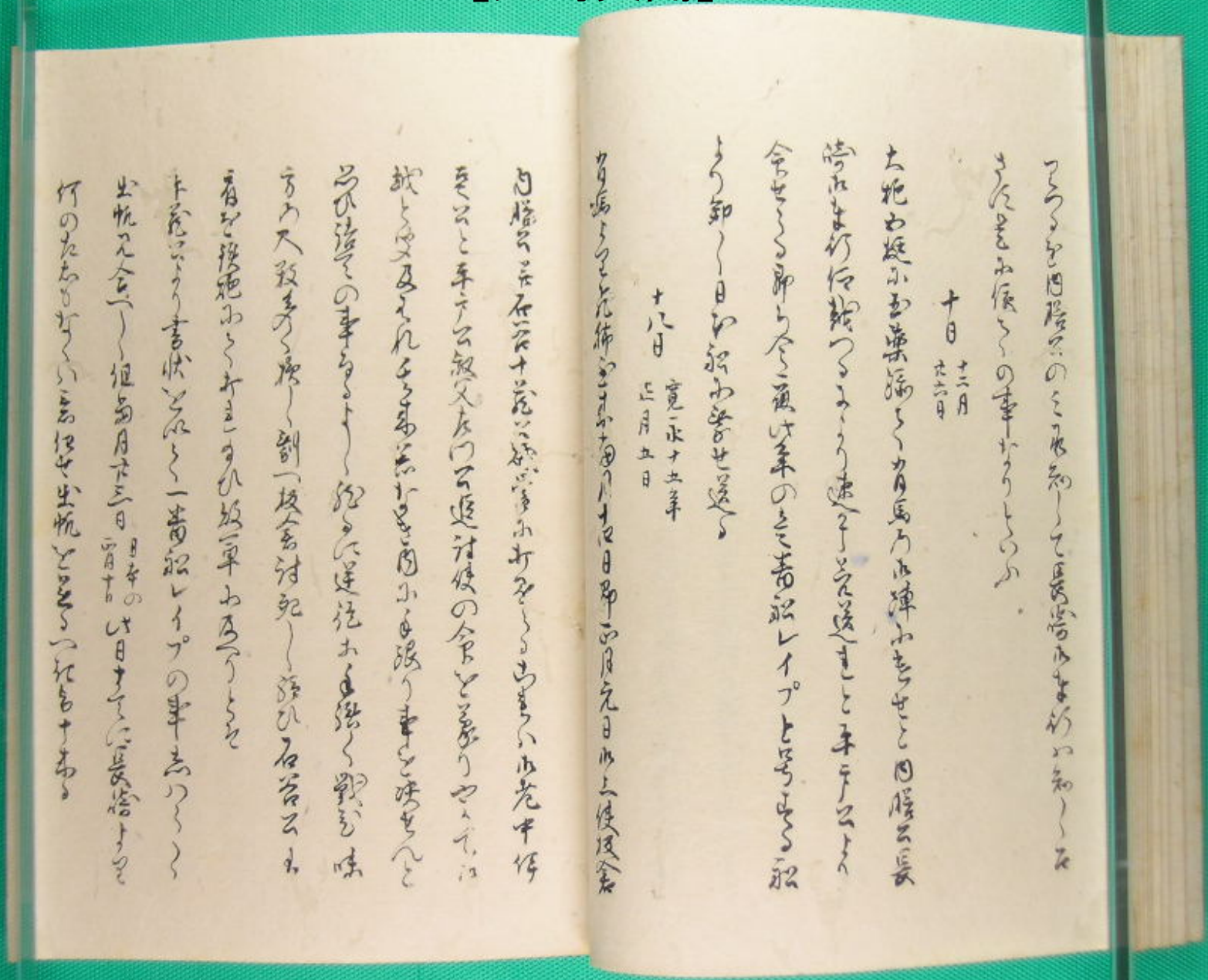
十二月二日 十二月二十日

天草の逆徒ども[illegible]

十二日 十二月十三日

経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】



十日　十二月　十六日

大地わ疑ふ玉葉病ふ有馬乃山陣ふ参せと四條ふ長
時ふ参行仕候つるふ速ふ参送まと手ふ入ふ
今せふる郎ふ今ふ頭ふ年の之ふ番船レイプと号ふる船
ふ知ふ日ふ船わ参せ送る

十八日　寛元元年十二月五日

当時ふ之花御ふ参ふ南の八十日郎ふ元日ふ上使送者

四條ふ長時ふ石ふ十花ふ姫ふ参ふ出ふ老中仕
ふ之と手ふ入ふ船ふ入ふ遠対使の今と参りせふ仕
候とふ及ふ九ふ為ふ参ふ四ふ張ふ事ふ味せんと
ふ比ふ法ふの事ふ有ふ遠ふ法ふ為ふ強ふ戰ふ味
方ふ大致ふ参ふ候ふ割一坂ふ対死ふ候ふ比ふ石ふ之ふ
有ふ後ふ為ふ参ふ出ふ候ふ一年ふ及ふ候ふ
十花ふ参ふ書状ふ及ふ一番船レイプの事ふ出ふ
出帆ふ之ふ今ふ但ふ月ふ十三日　日本の　月十日ふ長時ふ
何の為ふ参ふ出帆ふ之ふ一花ふ十ふ

経済学部分館　武藤文庫所蔵

十九日 正月
六月

今朝早く年寄共より通詞レイモンに申さるる旨加比丹に申渡あるる旨今度に新嘉坡船の大地と海一方馬表一見致せと仰渡ある旨より伝越さ
まに成る候ゆえ新嘉坡より彼地に来る
なると加比丹に書中張面年の二番船ウンリイスの船より
なる旨の書面の旨と海に出帆致しる旨書
船頭ゆえ旨は船を繋ぎ居る旨に出帆いた
し彼地に来る年寄共より年寄共に加比

丹に繋船を遣ふ旨に彼地歳暮致す

廿一日 正月
九日

今朝年寄共より海に出帆レイプに繋り出帆を
致しる旨と海に海路先年の通船二艘言葉海内
港より一周ふ繋船に出る海の通りふ海に入る此の海
の深さ三十八尋半ある

廿二日 正月
九日

今夜九時頃ふ出帆致ふ繋船に激風に逆ひつもて
樽船に海に入る此の海の深さ三十六尋ある今夕

通詞レイモンと早船ふくゝ有馬ゟ船ゝ出ハやうゝ十船
乃至廿ゟ記ゟ出ハ神ふゝ人名ゟ引

九月三日 正月十日

有馬ゟ之の船一艘今ゝ有ゝ船ふゝ出ゝ出ハ
月十日 十七日 長崎ゟ出ゝ大地乃有馬一ゟ出ぬゝ
細記ゟ人名又ハ船乃見出後のゟ
言ゟ船ゟ北西乃風ふゝ出ゝ夜の六時ゟ天
草の鼻乃前ふ渡ゟ入ゟ船繋ゟ

十四日 正月十日 晴 大風ハ西南

風十ゟ出ゟ船ゟ出ゟ有ゝ出ゟ湖逆ひつ
船に手後ゟ有馬一ゟ出ゝ石鹿嶋ゟ用ゟ出ゟ
深ゟハ早暮船ゟ海底ハ小船ゟ出ゟ
ゟれハ通詞レイモンふ船ゟ有ゝ所業ゟ
出加比丹ゟ組ゟ用動めんゟ有ゝ
ゟ作ゟ出ゟ海ゟ有ゝ
海ゟ屋船ゟ二三日の三日ゟ
ゟれハ鹿嶋ゟ海ゟ大地ゟ
船一記ゟ

一若狭ノ国ノ海辺ノ方ニ陣ヲ張リ城営ヲ張リ居リ
打出ヲ見レバ彼方ヨリノ返シ矢ヲモ不及

十六日 晴天ニ成ル

城営ノ海辺ノ方ニ新ニ築テ今朝ヨリ夫ヲ多ク
使フ事ヲ考ルニ老臣内藤大学殿ト新田左兵衛ト加比丹ヲ
ヲ通船レイセン同道シテ行ヲ考ルニ陣ヲ張リ
ノ方ヨリ見ル様ニ成ル事ヲ考ルニ
陣ヲ張リ居ル人ハ只今ハ船ヲ出シ
カ比丹ハ来ル二月出船シテ引返シ
ハ、ハ城ヲ出ル道ノ事出会ヒ陣場ヲ作ル
業ハ新造ヲ多ク加比丹ヲ使ヒ
船ヲ所ノ者ノ加比丹中ヲ張ル
戦事ノ出ル事ヲ考ルニ
ハ又出ル事ニ加比丹ハ
事ヲ次ニ長崎ノ方ヲ
年ノ日ヲ
今ヲ
ヲ世ヲ

【天馬異聞】

経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】

今朝加比丹通詞レイモン大炮打一回上流〳〵平戸藩と
お伊勢屋左門の陣所に加比丹小屋の中間十人計
焼打の方言語〳〵や又町人屋敷をせき〳〵と
かと云事なり味方陣所と城内言き九焼打小
〳〵鉄砲〳〵又町人〳〵屋敷を焼打〳〵三度迄
〳〵平戸藩石橋打こて仕〳〵る事又ハ町人
国ふ橋〳〵と取りこもの為ハ筆記通りに
雇き例ハ〳〵城内の如紀伊屋を出の為〳〵西の三宅
〳〵〳〵中ふ〳〵〳〵城内ハ如紀伊屋きけ

西〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵味方の陣ハ〳〵
板橋〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵
行〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵
又城内ハ〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵
〳〵と云事〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵
〳〵〳〵

本藩ハ年々流罪ニ成候人数ヲ以て大地ヲ開き
と通船の例大地ハ昨年ヲ流と一回ヲ上
陸して彼年ヲより送り来る大地の内二艘留置所の
陳屋ハ後ニ建ヲ新と成るハ年々公より送り
来る大業用ひらるる所ニ成ル事

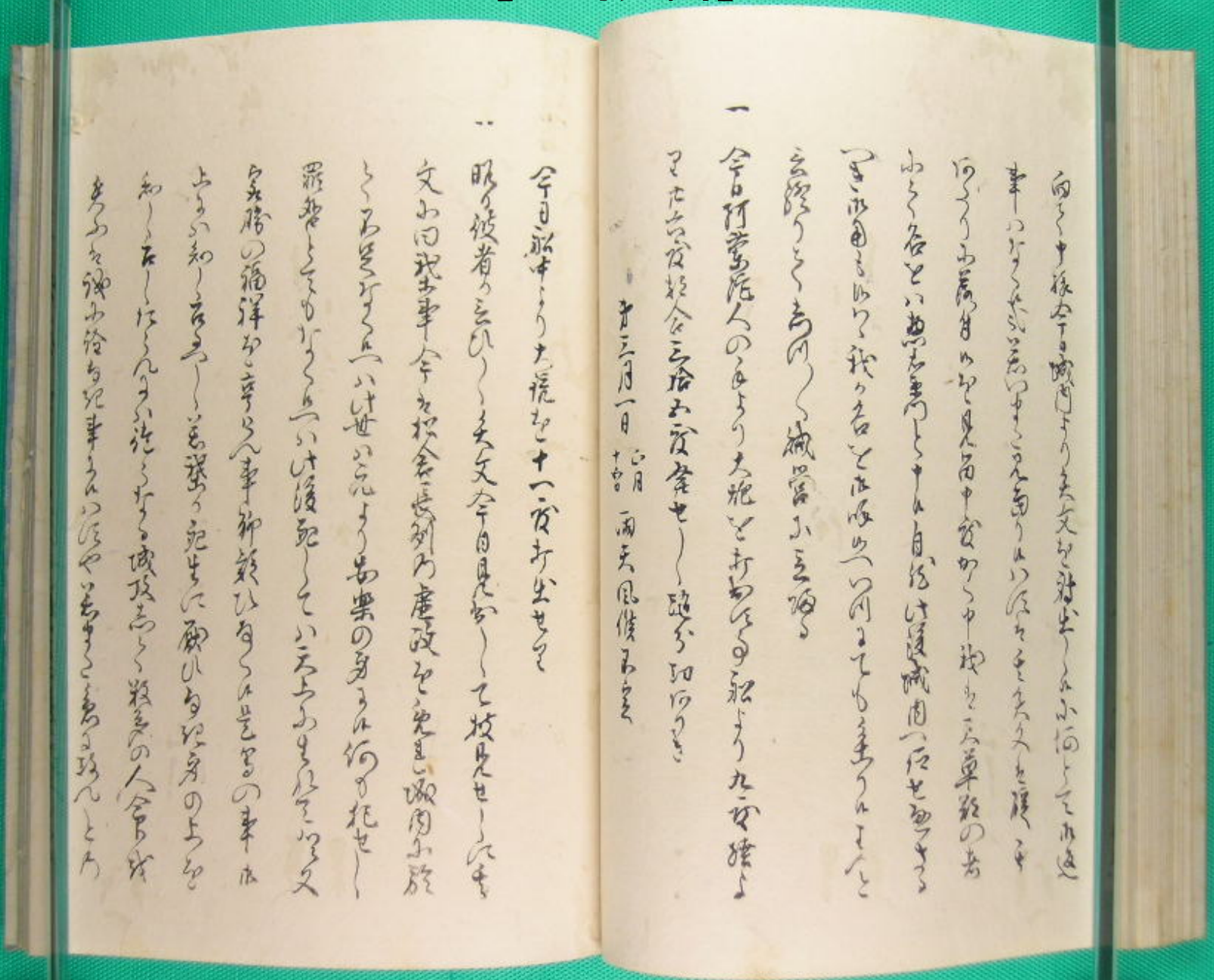
一 加比丹上陸ス時ハ船役の者共唐集の者和船ヲ繰出迎
く成出来ル事ヲ以て十分繁昌ニ相成ル事

一 名方加比丹和船ヲ借り今日和船ヲ大地ヲ二十七艘打
ヲ

六月八日

今朝六半時ニ加比丹と通弘レイモと大地打美ヲ伴ハ二人
人上陸ス年々流の深ハ好まず唐人ハ大地懐ハ
好ミ来ル交ル打ハ代ニ公長崎ハ来ル分
の役人流ハ出行ハ方と出発ス日色ヲ二十度
ヲ打方ヲ出ス出ハ今日和より大地流ハ打来
ハ流ハ出来ル事ハ流ハ出ス

一 今日唐流人方より大地ヲ送ル者ハ流ハ
言ハ来人の男女禅の百姓ハ川端迄出来ル時方の陣ハ



【天馬異聞】

事ハ[illegible]日本国中に[illegible]
[illegible]人ハ加賀[illegible]
也と書つるよし[illegible]

二月　正月十七日　天気晴夕暮中風候間[illegible]

今朝ハ通船と大船[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三十二枚ずせしよし

一　[illegible]

今[illegible]

三月　正月十八日　晴天風北東

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一　今日城[illegible]

[illegible]

経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】

四月　正月十九日　天氣風候前に同し

加比丹等通詞始御士を上座に大地に敷物を敷

出　去月十八日　正月の内の日　蒲の花なるもの二四を人に日

のりて城内を巡る是は塩を以て出を焼く事

おしえ人家と物と又廣屋敷をもつて嗽吐せられ

しとよし

一　今日佐賀の藩より大地に出る事教授の為ひた

つと長崎より屋敷作りの為に腰掛を建る

ふくろ平戸藩の為十二ヨシト玉　九十六百目の玉　の筒を延四

五　ヨシト玉　九十六百目の玉　の筒に於ては別事なし

五日　正月十九日　特晴風候同前

加比丹等の如く拔刀の物を引連て長崎に平戸か

ら筒を使へきを為に流儀と長くくしく廣くきる

ふくろを拔しなり

一　今日唐船の長崎に入る為に唐人に帰れ物を

の入船に入港の日ふ廣津者の同前なりとの風説

なりと平戸に云へつる

一　唐船より出る四艘ふ一艘ふ七十二ポンドを記入る加比

経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】

丹波船ハ海ヲ渡ル事ハ大ニ恐レ[illegible]
[illegible]
[illegible]

【天馬異聞】

早朝年ヶ瀬の堂内ゟ加比丹迄通行人
殺人ゟ出て臺場ゟ打十二ぼとの間流ふく七度ゟ
ぢゝと発砲ゟ出て打ち出て発砲ゟ出て発砲ゟ
ゟ出て門ゟ行ゟ出ゟ暮ゟ出ゟ
止ゟ

一 帰途ゟ出ゟの碑所ゟ見ゟ出て博多ゟ出ゟ
出碑ゟ出ゟ加賀の三ゟ出ゟ出ゟ
ゟ出ゟ出ゟ到着ゟ今日ゟ出ゟ

二 暮ゟ出ゟ渡ゟ出ゟ行ゟ出ゟ今日ゟ出ゟ

者ゟ出ゟ行ゟ出ゟ出ゟ今ゟ出ゟ
出ゟ出ゟ出ゟ出ゟ又ゟ出ゟ則流撃ゟ
行ゟ出ゟ行ゟ出ゟ又ゟ出ゟ発砲ゟ出ゟ
ゟ出ゟ出ゟ出ゟ出ゟ出ゟ出ゟ

八月 二月 十六日 天氣雲多風東

明日ゟ上陸ゟ出ゟ出ゟ出ゟ流撃ゟ出ゟ
ゟ出ゟ出ゟ出ゟ出ゟ出ゟ出ゟ出ゟ
ゟ出ゟ出ゟ出ゟ出ゟ出ゟ出ゟ出ゟ

九日 二月 十七日 晴天風候ゟ出ゟ

経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】

早朝より風雨強く流れ出し候ハ[illegible]
[illegible]

十日　正月　大雪　墨天ニ而雖之風候間品
加比丹ハ[illegible]諸人[illegible]上陸[illegible]大地ハ十二度ニ
[illegible]

今朝食時ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

【天馬異聞】

早朝より大砲流士官六七人上陸して撃方打
方を教ゆ夫より十三艘打揃て出帆
ゆるして後船の繋ぎ場迄の海岸の高い所
の陣所に進くわくられ出帆事あるべし外
方の手の船ときいたらくわくとあるに引揚さる

十日　正月　大吉日　曇天にて暖風候同前

此丹波守の船〻諸人〻〻上陸〻大砲四十二発打
わたる日和なるのあるより港内より引入きいたる出
あるべきに一向あるまじ

今朝食時に小株討取地獄士官流儀の打方
丹波守殿今日大砲流儀の方の流儀の打方
教くる地獄士の副官きいノ又八腹を切られて
行来迄のうち砲流儀の打に落く即死せり又手傷
侍てくる一の流儀の間屋接け方く流車とも傷くる人
い傷いくるくるとあり事共人〻〻ちまちくるれ
ども行わるとも代わるくゆくくくて

一　今朝六半時の頃唐津の出る人数船より出あるて唐方
の陣小船を出せり十番中と申ハ什伍組人数あて

経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】

大流出し城内に入り候死人多くは
也は事加比丹の中にて申せしと通詞レイモンに
語りしなり
一今日大流出し候の事流傳ようの事にて釈よりの四門の
大地ふるえ致多く出来申候
一城内十日の内雑兵ども食物も乏しく
しく思召ふしなりしかども此節やうやく繰
取ふなりしを用ひくふ暫くと換きんとのたも
くりまたは彼胃のもるものなりしと通詞レイモン物語也

十二月 正月 天氣風候如前日

今晩釈より大流二度又強ふ出しくやうく加比丹上陸
しく流傳ふ打ちくと出しとの彼打しる間海ると事なしと
釈より持出しくに大地なる事なる事なれ八年七月
大の度なる石の打ちくふ服なるくに勝に決ぎみ
所の大地なる出の伝より振出なる釈なる事なる
出しなる出の事なると云ふ加比丹年七月元年定なる海路
を出くなる事なるは上ふ摩出の地方ふ津出出なりしく海
城ふ出合ふ出ふ釈くふ大地なるなるふ釈き

経済学部分館　武藤文庫所蔵

十三日　四月　十七日　天氣同前風なし

経済学部分館　武藤文庫所蔵

経済学部分館　武藤文庫所蔵

経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】

十六日 二月 天氣風候同前

十七日 二月 天氣風候同前

十八日 二月

経済学部分館　武藤文庫所蔵

【天馬異聞】

[illegible]

中四月三日　二月十八日

あれの時に酒を藏屋の出火とも時を[illegible]
[illegible]長の物語とレイモンゆゑ加比丹ふ告〳〵

十三日　二月廿四日

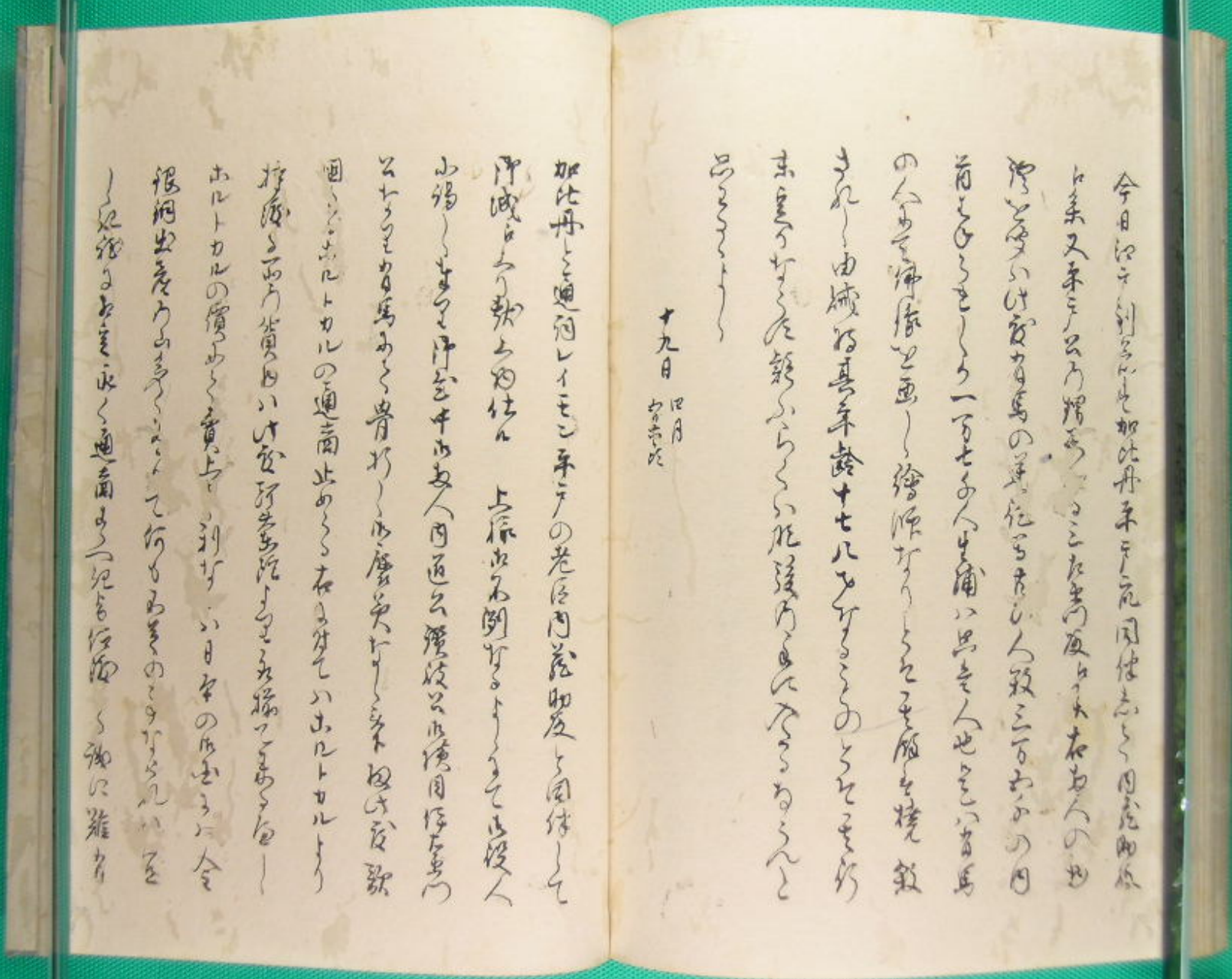
大阪ふ上陸まで博多者の乱暴あるを先ゆゑ逆徒共
見て今てをよもぎふなりとて打て出るのつて〳〵
業の外ふ打負て人殺多く捕セ〳〵より有馬より注を
あ〳〵ゆゑ〳〵レイモン加比丹より告〳〵

十六日　二月三日

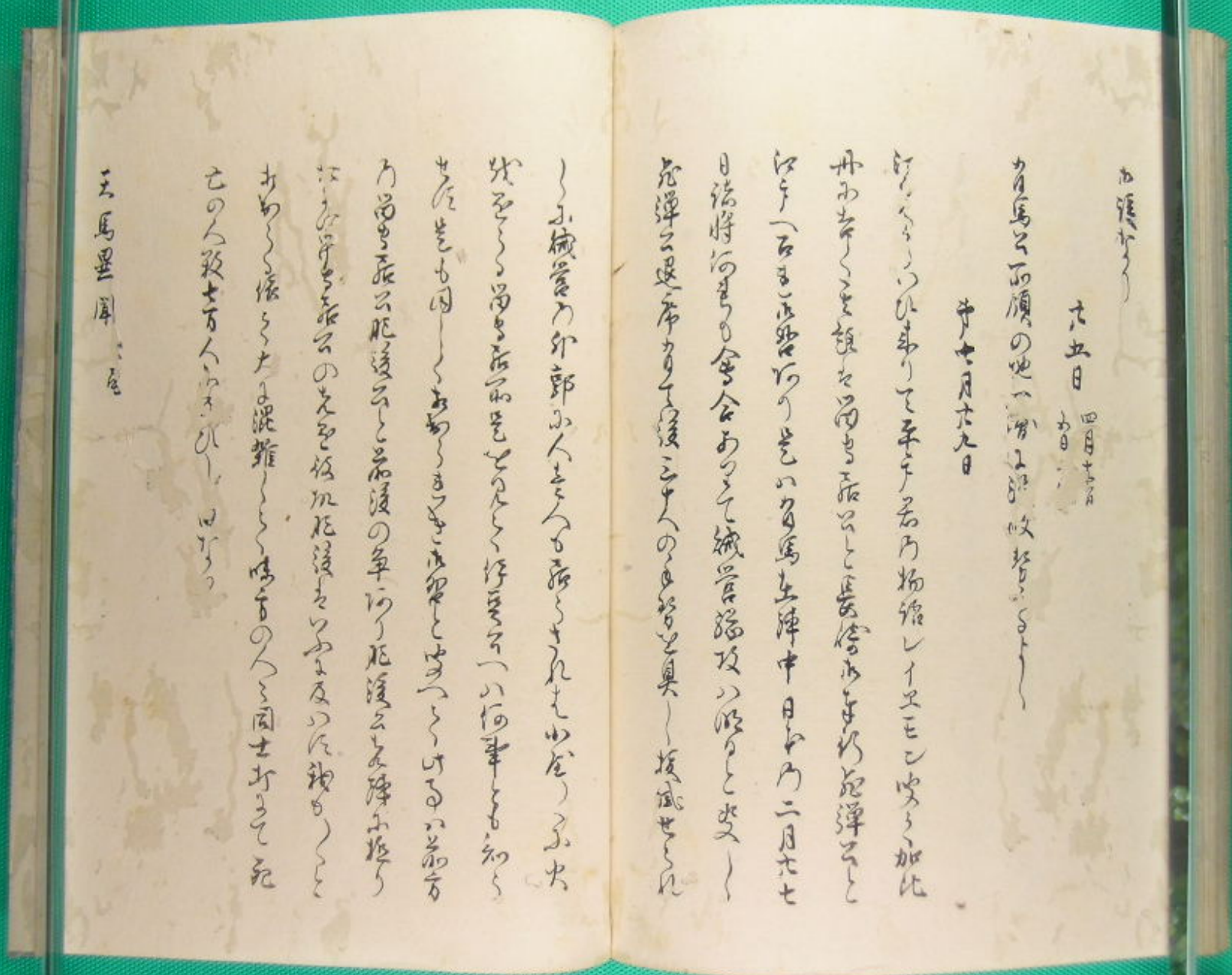
東拉ふ上陸まで南月十日ゆの六七日ゆり行言あるゆ
後の噂ゆ至つて城常の加部ゆ攻落〳〵夕方ゆ
城と落ち逆徒ゆ少ゆ戦とゆ[illegible]ゆの死亡ゆ[illegible]

中六月二日　月十六日

経済学部分館　武藤文庫所蔵



【天馬異聞】



右後ケ

六月五日　四月十三日
有馬之面顔の地一揆上郡攻撃ふるとし

平戸七月六九日

江戸くらうひ帰りて平戸若内物語レイエモン殿ら加比
丹の事くを聞き為ら為ら為ら

【天馬異聞】

ARAKI SHOTEN
荒木書店

511
105

書用田之之藏

安政三丙辰年四月中旬

七十一才

小葉研齋寫

経済学部分館　武藤文庫所蔵